

はじめてのみなさんへ

かんじゃ

ろうどう

患者さんの労働

- 〇 療養所で必要な仕事はたくさんありました。でも、お医者さんや 看護師さん、患者さんのお世話をする職員は、少ししかいません でした。
- 〇 患者さんたちは、病気を治すどころか、食事のしたくや着物の洗濯、大工さん、病気の重い患者さんのお世話など、職員がするはずの仕事をさせられました。こうした労働は、「患者作業」と呼ばれました。
- 〇 労働のお給料はほんの少しで、このお金は患者さんたちの食べ物 や包帯などを買うためのお金から支払われていました。お給料を もらう人が増えたり金額が増えたりすると、食べ物を買うお金な どが減るしくみだったのです。
- 患者さんたちは、如覚麻痺や運動麻痺などの症状がありました。 それでも仕事をさせられたために、ますまず病気を悪くし、手足を悪くして切断したり、失削してしまったりもしました。
- ハンセン病を治せる薬がなかった時代でも、無理な労働がなければ、後遺症は軽くてすんだはずでした。
- 〇 こうして患者さんたちは、病気を治すために入ったはずの療養所で、病気や障害を重くしていったのです。